

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.23

【訪問介護(ヘルパー)の現場 ～ニーズをひろい自立支援を担う～】

再び、ヘルパーの介護現場についてオンライン講座などを通して考えたことを取り上げます。10月27日にオンライン開催された「あさくさ在宅地域仲間のDI&地域の学び塾」(HAP主催)を興味深く受講しました。この日の講師はヘルパーとして介護の現場で働く小谷庸夫さん(ヘルパーステーション 和翔苑所長)で、介護サービス利用者本来のニーズをすくいあげるためにワンコインサービスを実施されているそうです。

興味深いお話ばかりでしたが、「できないから(掃除や買い物などを)代わりにやる」のではなく、「やれるように支援する」ことを目的としているという自負が印象的でした。

利用者の依頼どおりに(ケアプランにしたがって)事務的に淡々とこなすのではなく、顔のみえる関係性を築いているのだから、利用者が本当にして欲しいと感じ取り実践する。特に独り暮らしの高齢者は、誰かと一緒にご飯を食べたいと思っている方が多いはずです。「孤食」は認知症予防のためにも避けたい習慣ですし、一緒に食べてくれる人がいれば食欲がわいてくることでしょう。たまには髪を明るい色に染めたいと思っているかもしれません。エアコンのフィルターを変えないと効きが悪く思っているでもできずにいるかもしれません。もしもの時のために懐中電灯を用意していても乾電池がきれていたら利用できません。懐かしい知り合いが訪ねてくることになっていて、その方のために特別なお菓子をを用意したいと思っているものの足が痛くて買いに行けないなど、できないことがたくさんあります。

こんなことを代行してくれる人がいたらどんなに好都合か！

何でもビジネスに直結する現在ですから「便利屋さん」という商売があることはわかっているけど、よく顔をあわせるヘルパーさんと頼みやすいだろうし、それなりに信頼関係が生まれているため安心だと感じているはずです。小谷さんのワンコインサービスは、こういう思いから始まったそうです。無理難題もあるだろうし多少の線引きは必要なのかもしれませんが、訪問薬剤師として百名ちかい患

者さんを担当する“みやちゃん”こと宮原富士子さんも、薬を届けるだけのサービスにとどまりません。日々の思いをつづった投稿の一部を紹介させていただきます。

***** 宮原富士子ブログ投稿10月28日 *****

【昨日の小谷さんのマインド】

今日夕方、お薬をお届けに。

毎度の患者さま、この方は一応居宅療養指導の方になりますが、毎回私がおもっていく何か楽しみ・・・で、今日は聞きたいことがあります→オーブントースターが壊れて危ないので買い替えたい件→近くの親切な電気屋さん紹介するの巻、先般紹介したソーセージのお取り寄せがとてもよかったので友人にもお歳暮で送りたいという件→ そろそろ寒くなってきたのでポタージュ系スープを私が選んでほしいという件でした。

昨日の小谷さんのマインドを思い出しつつ、楽しかったといわれて帰ってきました（もちろんちゃんと薬の話やフォローもしていますよ。）でも小谷さんの話を思い出して同じベクトルだと。今日もよい訪問でした。

***** 宮原富士子ブログ投稿10月29日 *****

【届けてお願い】

患者様からの届けてコール（みかけは「後で届けてね」と大きな態度だったりすることもあるけど）は、潜在的に自分にかかわってほしい、自分を大事にしてほしい、という声なき声なんじゃないかと最近思うことが多くなりました。一瞬お店の中は「えっ」という雰囲気になることもあるのですが、そこまでやるかっていう雰囲気になることもあるのですが。でもその中に何かがあるのです・・・たぶん。その方たちのかかりつけ薬剤師担当は 一応ほとんど薬局長のわたくしが責任もってさせていただいています。何かをお話になりたいのを深く聞いています。そのうち電話かかってこないと不安になったりもします。そういう関係性の中で何年と生活してゆくのが地域なんだろうなど。

職種が違って、在宅療養のベースにあるのは利用者の自立支援を担う責任と愛、そして根拠ある実践のようですね。

★宮原富士子公式ブログ <http://myankoblog.seesaa.net/archives/202010-1.html>